学推だより vol.10

KOKURA
Elementary School
January 26th / MON / 2015
発行：学推担当

これから求められる学習指導について④。

各教科・領域等の授業実践を振り返る中で。

前号では，これまでの「教える」「学ぶ」の関係を改めて確認できる内容を書いてみました。その要素も授業づくりにおいて大切にしていくべき点だと考えます。前号に続き今号でも，「アクティブ・ラーニング」の「**主体的に学ぶ**」の視点から考えていきたいと思います。

□「課題の発見・解決に向けて**主体的に学ぶ**」について

子どもたちが主体的に学ぶには，やはり，**「子どもたちが学習問題を『自分ごと』としてとらえること」**につきると思います。そのためにこれまでにもいろいろな工夫がなされています。例えば，単元のゴールを明確に示したり，そのゴールが子どもたちにとって魅力的なものになるようにしたり，あるいは学習計画を子どもたちと立てたりといったこと等が挙げられます。また，学習問題を子どもたちの実生活に近づけることもその一つです。

それらを踏まえ，福田氏が挙げている「学習者のメタ認知を促進する発問例」は，子どもたちが主体的に学ぶ要素として，問題提示の際に大きなヒントを与えてくれます。次のようになります。

問題の種類	例	子どものメタ認知の例	解答例
普通の問題	守君は時速４kmで歩いて，２km先の学校に行きます。時間はどのくらいかかりますか？	この間の授業でかけ算をしていたな。じゃあ，２と４をかけて８！	８時間
メタ認知的活動を促す問題	守君は時速４kmで歩いて，２km先の学校に行きます。何時に出ると守君は８時に学校に着きますか？	この間の授業でかけ算をしていたな。じゃあ，２と４をかけて８！え，８時間だったら，守君は夜中に家を出ないといけないなあ。これは，違う！そうだ…。３０分だ！	７時半

問題文にこのような工夫をするだけで，子どものメタ認知に変化が見られることがわかります。「子どもの学び方」からとらえ直すと，問題提示の際にこのようなちょっとした工夫を意識していくことも，子どもが主体的に学ぶ要素であると考えることができるのではないでしょうか。もちろん「今すぐに」とはいかないですよね。**「１単元１問題から取り組もう」**という意識のもとに実践を積み重ね，みんなで共有していくことが大切だと思います。

次号では，「アクティブ・ラーニング」の主旨を整理した２つ目の視点の「課題の発見・解決に向けて**協働的に学ぶ**」について，今後の授業づくりの資料を紹介させていただきます。

※今回取り上げさせていただいた福田氏の「学習者のメタ認知を促進する発問例」は，『活用できる知識の構造とその育成』という論説からのものです。詳細につきましては，学推担当までご一報ください。